

令和6年度 第1回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）議事録

- 1 期日：令和6年5月28日（火）15：00～17：00
 - 2 場所：有田工業高校 会議室
 - 3 出席者：校長を含む委員11名 うち欠席1名
事務局（本校職員）13名 うち欠席1名、代理出席1名
 - 4 会次第及び議事録
 - (1) 開会
 - (2) 任命状交付
 - ・机上交付とした
 - (3) 校長挨拶
 - ・委員の承諾、事業の趣旨、学校の様子等について説明し、挨拶とした。
 - (4) 佐賀県教育委員会事務局挨拶
 - ・今回は出席なし
 - (5) 委員及び本校事務局教職員の紹介
 - ・自己紹介を行った
 - (6) 会長及び副会長選出
 - ・「佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」の第6条第1項にある「協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める」という規定に従い、立候補を求めた。委員の中より、副会長への立候補があり、出席している委員の承諾を得て、副会長の立候補者の承認を得た。
また、会長の立候補はなかったので、事前に事務局にて内諾を得ている委員を会長として推薦し、出席している委員の承認を得た。
副会長についても、事前に内諾を得ていた委員を副会長として推薦し、承認を得た。立候補の委員に加えて、2名の副会長を置くことについて、出席している委員の承認を得た。
 - (7) 会長挨拶
 - ・会長としての抱負を述べられ、ご挨拶された。
 - (8) 説明事項（進行は会長）
 - ①学校運営協議会制度について（主幹教諭より）
 - ・配付資料をもとに、学校運営協議会制度について説明を行った。
- 質問：**学校運営協議会のメンバーの選定は、どのような経緯で選定されているか。
学校はその地域との連絡網がなくて苦慮されてた部分をお手伝いさせていただいた部分がある。委員の選定をする場合は、学校側のみで選定選するのではなくて、学校運営協議会の委員の中から、次の委員の推薦をするということも取り入れてはどうかと思う。地元で頑張っている方もいるので、この運営協議会の委員の意見を組みながら、今後もこのコミュニティ・スクール制度を発展させることができるような提携を考えてほしい。
- 回答：**頂いたご意見については、貴重なご意見として、今後の学校運営協議会の活動、委員の選定に活かしていきたい。
- ②SAGA コラボレーション・スクール事業について（主幹教諭より）
 - ・配付資料をもとに、SAGA コラボレーション・スクール事業について説明を行った。質問等はなし

(9) 議事（進行は会長）

① 令和6年度 学校運営の基本方針等について（学校長より）

- スクール・ミッション及びスクール・ポリシーについて
- 長期経営計画及び本年度の教育目標（学校要覧 P. 7-8、P. 57-58）
- 令和6年度 学校評価計画について

・配付資料をもとに、上記3点について説明を行った。

質問①:「スクール・ポリシー」や「校訓」など決められて、学校全体で生徒も一緒になって目指すということだと思いますが、生徒へどのような方法で伝えられているのか。また、生徒をどのように導いていくのか。

回答:職員会議等では職員には、この原文をそのまま周知している。生徒には、機会あるごとに、「地域に愛される学校」となるよう話をしております。今後、学校ホームページに掲載していることなどを伝えていきたい。

質問②:資料8ページの学校評価計画の2項目に「前年度評価結果の概要」が3つありますが、3つともやっていると大変なのではないか。このコミュニティ・スクールをやることで、地域貢献したという評価に繋がると思うが、現状どうだったのか。また、2番目に「地域学習の日」について挙げられているが、その「地域学習」の経緯について、その以前はどういう形だったか。また、どのように改善されたかについて説明していただきたい。新しく委員になられた方もいるので、こういう事例については、きちんと報告していただきたい。

回答:前任の担当者との引き継ぎの中では、この「地域学習」は、地元の企業に生徒の目を向ける機会、地域のことについて知る機会として、有意義な取組だったと聞いている。業務の引継ぎの中で、課題についても把握している。なお、この「地域学習」については、今年度、第2回の協議会の中で、議題として取り上げて、改善点を見つけ、よりよいものにしたいと考えており、学校内の担当では、このような共通認識を持って取り組もうとしている。

質問:昨年ではなく一昨年までどのような形式で地域学習を実施していたか、また、どのような問題点が上がり、どのように解決し、どのような評価をしたのかということ。私からその経緯について説明すると、学校側として足りなかった部分があり、不満足だったので、ここで議題として挙げさせてもらった。この部分を説明してほしいか。

説明:昨年度から今年度に向けての引き継ぎでは、西有田にも多くの貴重な資源等があるにも関わらず、行ってなかったということであった。その資源に生徒を触れさせようと、学校運営協議会の委員からご指摘いただき、西有田方面へ行くようになった。

質問:私から補足させてもらおうと、機械科や電気科等々ある中で、要するに学校として色々なこの地元の企業の人と繋ぐっていうことをしようと思っても、そういうパイプがなかなか見つけることができず、それまでは本当に「地域学習」と言いながらも、地元企業や産業と繋がることができてなかったということです。

回答:私は、過去、機械科の2年生に携わった時は、地域の会社を訪問したり、地域の中の自然に触れたり、陶山神社など歴史を知るという企画をしていた。委員さんのご指摘どおり、もう少し深掘りをすれば、「地域学習」の日をもっと有意義なものにできるのではないかと捉えていた。

説明:そういう「地域学習」の実施上の課題について話があったので、学校運営協議会の委員として、工業部会等々に話した。ロータリークラブ関係者には企業の経営者もいるので、学校が産業・地元の企業と繋がりたいという話をして、地元の優良企業に繋いでもらった。地元の外に出るなどとは言わないまでも、地元から出た後、また地元に戻ってきたいと思った時に、こういう地元の企業があったということを思い出し

てもらうためにも、非常に有意義な活動ができたのではないかと思います。引き続き、何とか頑張って、このような意義を次年度に繋げていっていただきたい。

質問③:やはり有工は、すごく特色のある学校で、県内外に情報発信をして、多くの生徒を募集できるようにその範囲を広げていくと思いますが、一方でどのぐらい地域の企業や大学等と協同した実践的教育に取り組まれているか。資料に記載されている取組は、どちらかというと県内向けに実施されている取組が多い印象だが、これから全国に向けて広げていく上で、このスケジュールが一杯いっぱいなのか、あるいはまだ余白があって、今以上に何らかの努力ができる余地があるのか知りたい。その取組状況の実感のようなものを教えていただきたい。

回答:余白があるかどうかというところ正直に言いますと、余白はあまりないと感じている。各科において課題研究に取り組んでおり、地域との連携を長期間にわたって取り組んでいる。6月頃から課題研究に取り組み始め、12月に学習成果発表会を実施するまで、長期間にわたって地域との連携をすることになる。また、担当できる教員が少ない状態で、これ以上、取組を増やすのは厳しい状況である。さらには、産業フェアやものづくりコンテストの九州大会等も控えており、各科それぞれ、余裕がない状況ではないかと思う。

意見:やはり一杯いっぱいの状況ですね。全国に向けての情報発信についても、その学校の余力っていうのが関わってくると思います。

次に、これらのイベントの何かしらの評価というものが、資料としてあると、改善点等が見えてくるのではないかと思うが、このイベントの実施についての何かしらの一定の評価基準を持って取り組むといいのではないかと思う。

説明:各科の地域連携の取り組みの評価については、具体的な数値などを示した評価資料はないが、参考資料の「学校魅力評価アンケート結果」に、地域からどのように評価されているのかというような地域に関連するアンケート結果があります。このような資料において、地域との連携を子ども達がどのように考えているのかという評価の尺度としてご覧いただければと思う。

意見:有工生の満足度、地域連携に係る取組のフィードバックとして、感想等がここに書かれているということですね。客観的に関わった方々の感想も含んでいるのかもしれないが、それにしてもかなりのボリュームで地域と関わられていることを理解しました。先生方が、積極的に地域との連携に取り組まれているか、これを見て感じます。

② 令和6年度 学校運営協議会 年間計画（主幹教諭より）

- ・ 配付資料をもとに、学校運営協議会の年間計画について説明を行った。

③ 質疑応答（10分）

質問:このコミュニティ・スクール通信の配布先について教えてください。また、どんな人達が読めるような状況なのか教えてください。

回答:このコミュニティ・スクール通信は、不定期で発行している。発行の頻度としては、1ヶ月1回を目指して作成している。今、有田町の1,800件に回覧板で回るようになっている。特集号に関しては、有田町の全件へ配布する予定である。予算の関係でカラー印刷ではなく、モノクロ印刷になるが、回覧板に載せております。

議長:本日の説明議事内容について質問やご意見などありますか。それでは、これで議長の任を解かせていただきます。司会を事務局にお返しいたします。

(10) 意見交換（20分）

テーマ：「SAGA コラボレーション・スクールに係るグランドデザインについて」

- ・ 4グループに分かれて意見交換（10分）
- ・ 意見交換の報告（8分）

- 報告**: A グループの報告。有工を目指す中学生が興味を持ってくれるような文章の表現が必要ではないか。例えば、アドミッション・ポリシーで「有工はこのような生徒を求めます」と書かれているが、「求めます」ではなく、「待ってます」という表現に、グラデュエーション・ポリシーでは、「このような人材に育てます」という表現になっているが、「叶えられます」という表現に、生徒の視点からの表現にするなどの工夫をしてはどうかという意見が多かった。また、有工生の意見を盛り込んでどうかというような意見もあった。
- 報告**: B グループの報告。学校の校訓が入っていないこと、有工の校名が小さいこと、写真の掲載の配置と大きさを変えたほうがいいのかという意見があった。ものづくりを通してアピールする部分、セラミック科とデザイン科だけでなく、4 科のバランスを考えて掲載することが必要ではないか、また4科が連携して、生徒を育てるという部分をアピールすることも大切ではないかというご意見があった。
- 有田町のならではのということを考えると「窯業」であり、地場産業の「窯業」や「焼き物」を背景に配置した方がいいのではないかという意見もあった。生徒を支えるサポート面をアピールできるようなデザインを取り入れ、「地域みらい留学」「コラボレーション・スクール事業」等の学校の連携の状況が分かるようなデザインとしてはどうかという意見もあった。また、短くキャッチコピーのような短くはっきりした印象で記憶に残るような文言を使うことも必要ではないかという意見もあった。
- 報告**: C グループの報告。最初見るに当たって、どういう子がまず見るんだろうというところで、まず有工に興味を持ってもらい、行きたいと思えるようことが大切はないかという意見があった。デザイン科、セラミック科は特徴ある学科ではあるが、マイナーなところもあるので、科をイメージできるように、進路先等がピンポイントで分かればいいのか。
- また、複雑なデザインになっていくと思われるので、整理整頓が必要であり、少し見やすくするために、ちょっと画像も減らし、文章も簡略化し、地域みらい留学の生徒の本校を選んだ理由を掲載するなど、全国の生徒からみた本校の魅力が明確になれば、うちの強みになるのではないかと、在校生のいろんな取材を通して、その意見を反映する等の意見が出た。
- 報告**: D グループの報告。地元有田の特徴を表現する上で、「焼き物」をデザインとして盛り込んでどうかという意見が出た。創業400年の有田の歴史について表現し、他のグループでも出ていたが、有田という地域性、焼き物のことを知って来ている生徒もいるので、やはり窯業であったり、陶磁器であったりについて、デザインに少し加えた方がいいのではないかと意見が出た。また、色が非常に多く、背景に記載されている「校章」の色味を抑え、バランスよく配色を考えてみてはどうかというご意見があった。また、科の特徴が見やすくなるように、もう少し分かる写真に差し替えた方がいいのではないかという意見もあった。裏面も、各科の情報があるが、デザイン科の先生で手を加えられるとは思いますが、色や画像の配置について調整が必要ではないかという意見があった。
- 事務局**: この意見交換で出た意見を盛り込み、再度、グランドデザインの再構築をしていきます。貴重なご意見をありがとうございました。

【11 諸連絡】

- 事務担当と、事務局より諸連絡を行った。
- ・グループ LINE の QR コードを配付。
 - ・Instagramと学校ホームページの QR コードについて案内。
 - ・次回は、7月中旬～下旬に開催予定。
 - ・主な議事(予定): 令和7年度教育課程、令和7年度使用教科書について
 - ・意見交換(予定): 地域学習について

(12) 閉会

○**校長**:本日は本当にお忙しい中、貴重なご意見いただきまして、ありがとうございました。
以上を持ちまして、令和 6 年度第 1 回学校運営協議会を閉じます。